

平成26年度 第2回千年のかくれんぼフォトコンテスト

平成27年3月10日

[三好和義氏の略歴]

58年徳島生まれ。

85年初めての写真集「RAKUEN」で木村伊兵衛賞を受賞。以降「楽園」をテーマにタヒチ、モルディブ、ハワイをはじめ世界各地で撮影。その後も南国だけでなくサハラ、ヒマラヤ、チベットなどにも「楽園」を求めて撮影。その多くは写真集として発表。

近年は伊勢神宮、屋久島、仏像など日本での撮影も多い。近著は「京都の御所と離宮」(朝日新聞出版)。日本の世界遺産を撮った作品は国際交流基金により世界中を巡回中。



審査員「三好和義氏」の第2回千年のかくれんぼ写真コンテスト に対する総評

「写真家の新しい『聖地』誕生」

今年で2回目を迎える三好市「千年のかくれんぼ写真コンテスト」。今回も力が入った作品が集まりました。昨年は初めてでしたので、こちらも少し緊張して審査をしました。今年は昨年を上回る作品を期待して作品を拝見しました。

昨年も感じたことですが、三好市は本当に写真家にとっては、理想の里なのだと、改めて思いました。例えば奈良の室生寺なども、写真家の「聖地」と言われています。それは「室生寺」が山の中にあり、お寺の造りがこじんまりとしていて、実にフォトジェニックなのです。それと同じ意味で、この三好市もフォトジェニックな土地だなど、2回目のフォトコンテスト応募作品を拝見して再確認しました。このフォトコンテストをする事により、新たな写真愛好家の「聖地」になると感じました。その聖地に、ふさわしい力作が今回もたくさん集まり、楽しく審査をいたしました。

偶然にも最優秀賞は昨年と同じ作者になりました。それは、決して、作品のレベルが高い低いという事ではなく、この撮影者が、この土地の魅力を知り尽くしているということだという事だと思います。

2席以下の作品にもいろいろなバリエーションがあり、この土地の魅力を伝えている作品が多かったと思います。今年作品を、拝見して、3回目から楽しみになりました。来年も、力作を期待しています。